



ジョイフル

VOL.62
2023.10.25 発行



名古屋営業所 乗務員 **松本 堅**

名古屋営業所で乗務員を務める松本堅さん。南星キャリアックス株式会社には2022年10月に入社とまだ日は浅いものの、以前から運送業に携わっているベテランドライバーです。現在、自動車部品の運送を担当する松本さんのこれまでの歩みを振り返りながら、知られざる素顔に迫ります。

——南星キャリアックスに入社した経緯と、前職との違いを感じた点を教えてください。

前職は食品関係の配送業務に携わっていました。ある日、前職の職場で知り合い、現在は南星キャリアックスに勤務している原さんが「今勤めている会社が募集をかけているから、よければ応募してみませんか」と声をかけてくださったのです。よくよく話を聞いてみると、仕事内容も給与面も理想的。思いきって採用試験を受

けたところ、晴れて入社する運びとなりました。

入社して驚いたのは、納品方法がまったく違うことです。食品配送はすべての商品を店舗内に運ばば終了ですが、自動車部品の場合は工場の広い敷地内に点々と置き場所が決められており、自分で部品を分別しながら納品しなければなりません。商品と置き場所の両方に注意が必要で、納品する最後の瞬間まで気を抜かないよう意識しています。

——新しい方法を覚えるため、どのような工夫をしたのでしょうか。

着任して2週間は先輩に同行し、きつちりと手順を学びました。その後は独り立ちし、構内に表示されている置き場所の看板を毎回確認しながら、

誤った場所に納品しないよう徹底しています。
ときどき納品場所が変更されるため、流れ作業をしたり、思い込みで確認を怠ったりすると非常に危険です。何度も配送を繰り返す過程で、業務のコツを習得していきました。

——仕事をやる上で、大切にしているモットーは何ですか。

前職から大切にしているのが、荷崩れを起こさないこと。食品配送を始めたばかりのころは、勝手がわからずに商品をすべて荷台の左側に並べてしまい、カーブを



曲がった際に積み荷が崩れ、大変な目に遭いました。その後、どうすれば荷崩れを起こさないか試行錯誤したところ、左右交互にバランスよく荷物を載せていくやり方が一番だと発見したのです。ドライバーの皆さんはご存じかと思いますが、初心者だった私は失敗しながら学んでいきました。一方、自動車部品の場合一度荷崩れを起こしてしまうと、部品に傷がついていないか細かくチェックしなければなりません。時間のロスだけでなく、傷がつけば返品になるケースもあります。荷崩れを防止するには、事前の積み方が大切。時間がないときこそ、丁寧に荷物を積むよう心がけています。

——どのような瞬間にやりがいを感じますか。

先輩方から「仕事が早くなった

ね」と声をかけてもらったときは大変嬉しく、もつと頑張ろうと前向きな気持ちになります。作業スピードが早くなった要因は、個人の努力だけでなく、トラック自体の設備のよさもあると思います。今乗務しているトラックには、パワーゲートという荷卸し用昇降装置がついており、腰の負担がかなり減りました。前職ではなかった設備で、少しでも作業負担を軽減しようとしてくれる会社には感謝しかありません。

——最後に、今後の目標をお聞かせください。

配送の仕事をしていると、ときにイレギュラーな事態が発生します。たとえば私は1日に2回、同じ取引先へ荷物を運んでおり、1便目の納品時にお客様から急ぎの部品の要請があれば、昼の2便目に間に合うよう調整する必

要があります。重要なのは部品の製造元とうまく連携を取り、積み残しを防ぐこと。部品を作る側、その部品を使って製品を作る側双方の橋渡し役をうまく果たせるよう、これからも精一杯努めていく所存です。

どれだけ忙しい状況下でも、安全に荷物を届けることをモットーにしている松本さん。誰よりも強いプロ意識を持って、今後も会社のために力を尽くしていくことでしょう。

